

練馬区協働事業提案制度 平成 24 年度事業実施分 総合評価

事業名	S A N G O さろん
団体名	東京都助産師会練馬地区分会
区事業関係課	光が丘保健相談所

(総合評価)

子育てを取り巻く環境が厳しさを増す中、助産師と保健相談所の保健師等がそれぞれ専門性を活かしつつ、出産後の母親の不安の軽減を図るという取り組みであり、社会的なニーズに即した事業でした。

母乳や卒乳に関する相談を、母子保健の専門家である助産師が受けることで、子育て全般の悩みや不安が相談できる場となりました。また、利用者からのアンケート結果からも、利用者一人一人の心に寄り添った対応が負担の軽減や安心感・信頼感につながっていたことが伺え、期待以上の成果がありました。

事業を進めるに当たっては、団体と保健相談所が、協働事業であることを意識して取り組み、信頼関係を持って事業が遂行できていました。また、区報による事業の周知や6つの保健相談所での事業実施は、より多くの方が身近な場所で母乳や卒乳に関して相談できる機会となり、協働で取り組んだ大きな成果となりました。

今年度も、引き続き協働事業として実施する事業です。事業の周知方法など改善すべき点を双方で協議しながら、より一層、充実した事業の実施に取り組んでください。

また、S A N G O さろん、出張 S A N G O さろんに、地理的、時期的な条件で来られない方もいると思われます。支援を必要とする人には、一人でも多く利用していただきたい事業ですので、常設の S A N G O さろんの南田中以外の場所での実施や I T を活用した相談を受付など、可能な範囲で検討をお願いします。

さらに、来年度以降も継続して事業が実施できるよう、利用料の見直しや企業とのタイアップなども含め、協働の関係を多角的に検討してください。

練馬区協働事業提案制度 平成 24 年度事業実施分 総合評価

事業名	災害時応援協定締結自治体との住民同士の連携・交流事業
団体名	練馬区町会連合会
区事業関係課	防災課

(総合評価)

首都直下地震の発生が懸念される中、行政だけでなく、住民同士が相互に支え合うことは重要であり、本事業は、その基礎となる顔の見える関係を築くこと、合わせて区民の意識啓発を図ることに取り組む事業でした。

2回の交流を通じて、参加者同士の支え合う心が醸成されたことは、いつ発生するとも知れない災害に対しての大きな成果でした。また、参加者が福島県塙町の原発事故による風評被害の現状を認識することで、町会ごとにそれに対する支援の動きが見られ、事業の成果が具体的な行動につながり始めていました。

事業を進めるに当たっては、団体と防災課が当事者意識を持って取り組んでいました。事業を通じて、住民同士だけでなく、行政同士もつながりを深める機会となり、災害時応援協定がさらに実効的になったと思われます。

今後は、引き続き様々な機会を通じて交流を続け、将来的に世代を超えて顔の見える関係が継承され、お互いに学び合える関係が築かれることを期待します。また、作成したパンフレットを活用しながら、この事業の成果を、地域の中で浸透させ、地域内での相互扶助の啓発にも役立てていただくことも期待します。

練馬区協働事業提案制度 平成 24 年度事業実施分 総合評価

事業名	外国人向け防災パンフレットの作成
団体名	光が丘地区連合協議会
区事業関係課	防災課

(総合評価)

本事業は、大規模な地震の発生に備え、外国人住民も防災意識を持ち、日本人住民と同様の知識を持って生活してもらえよう、意識啓発を含め、外国人住民にとって、見やすい、分かりやすいパンフレットの作成・配布に取り組む事業でした。

パンフレットの作成作業は、これまでの外国人住民への防災に関するアンケート結果を踏まえつつ、海外滞在経験のある日本人住民の視点や、外国人住民の意見を聞きながら取り組まれていました。その結果、イラストの色を塗らない、吊るし紐を通す穴を設けるなど、様々な工夫が凝らされたパンフレットとなりました。また、完成後の外国人住民へのアンケート結果では、見やすさ、分かりやすさなどの項目で高い評価が得られことから、期待どおりの成果がありました。

事業を進めるに当たっては、団体と防災課が協働の意義を理解し、目的の共有を図りながら、納得するまで十分な協議を重ねて進めること、お互いの意志を尊重して取り組むこと、当事者意識を持って取り組むことができていました。

今後は、このパンフレットを活用して、外国人住民との日頃の関係性を築いていただくことを期待します。

また、区内には外国人住民が経営する飲食店も多いことから、商店会等を通じての配布も、ご検討ください。

練馬区協働事業提案制度 平成 24 年度事業実施分 総合評価

事業名	親子ひろば「Loveピースclub」
団体名	特定非営利活動法人保育サービスぽてと
区事業関係課	光が丘保健相談所

(総合評価)

育児や子どもの発達に不安を持つ親子に対して、通常の親子ひろばとは別に、子どもたちを気兼ねなく遊ばせることができ、同じ悩みや不安を持つ親同士が交流できる場を設けるという、NPOならではの視点と先駆性を活かした取り組みでした。

協働事業として1年目に比べて利用者が増えるとともに、新たに開設した「あいあい南大泉」においても円滑に事業が実施できていました。また、利用者からのアンケート結果などから、従事する保育者が利用者一人一人の心に寄り添い、それぞれの状況に応じた適切な対応を心掛け、質の高いサービスを提供されていたことが伺えました。期待以上の成果を確認するとともに、社会的なニーズに即した重要な事業であることを改めて認識しました。

なお、保健相談所は、来所者の中から子どもの発達に悩みを持つ親へこの事業の紹介を行う、団体は親子ひろばを運営するという、それぞれの役割を果たすことで、利用者は、区の紹介による安心感と、区の直営事業でない利用しやすさ、個別のニーズに応じた柔軟な支援を受けることが可能となり、協働事業の特徴である相互補完ときめ細やかなサービスの提供につながりました。

2年間の協働事業を通じて、対象者は多くないものの、社会的なニーズが確認できた事業でした。これまで築いた信頼関係や培った経験を活かして、今後の協働のあり方を協議し、より良い形で事業を継続していただくことを期待します。

また、事業報告会においても確認しましたが、事業継続の資金の確保として、質の高いサービスの提供に対する利用料金の見直しも模索していただきたいと考えます。

練馬区協働事業提案制度 平成 24 年度事業実施分 総合評価

事業名	障害のある方の「働く場所」づくりに向けた学習会と シンポジウムの開催
団体名	特定非営利活動法人ワーカーズコープ
区事業関係課	障害者施策推進課

(総合評価)

障害者の就労事情が厳しい中、当事者や当事者の親に加え、区民への理解も図りながら、働く場所をつくっていくという、社会的に重要な課題である一方、大変難しい課題への取り組みでした。

1年間という短い期間の中で、区民の方に障害者の就労に関する理解を図ることと、働く場所づくりに向けた事業計画を作成するための学習会を開催することの両方に取り組む事業でした。どちらか一方に絞って取り組むことができれば、もう少し具体的な成果につながったと思います。

また、学習会においては、計画段階で、具体的な対象者の絞り込みを検討するとともに、より多くの現場の状況を見る機会を提供し、事業計画書作成後の事業立ち上げの際の苦労を学べる機会もカリキュラムに入れる検討が必要であったと感じました。

しかし、こうした中でも、立場や考え方の違う方を集め、9か月にわたって学習会を開催し、事業計画の作成までたどり着いたことは、多くの協力者に恵まれたことでもあります。団体や障害者施策推進課が大変苦労をされながら、事業に取り組まれた成果であると感じました。

また、障害者の就労や働く場所づくりには、国や都など行政の支援制度が大きな関わり持っているため、団体と障害者施策推進課が力を合わせて事業を進めることは十分意義がありました。さらに、事業を通じて、双方とも改めて障害者の働く場所をつくる難しさを実感されたことは、双方が当事者意識を持って取り組まれた結果であり、一つの収穫と言えます。

今後は、今回の学習会に参加した方の想いを大切にして、それぞれの立場に応じた必要な支援を継続していただくことを期待します。

練馬区協働事業提案制度 平成 24 年度事業実施分 総合評価

事業名	外国人区民と日本人区民の相互理解のための交流会事業
団体名	Next!練馬文化振興協会
区事業関係課	地域振興課

(総合評価)

外国人住民が増加傾向にある中、日本人住民と外国人住民に対して様々な切り口で講座やイベントを行い、それを通じてお互いが文化や習慣などの違いを認め合うなど、多文化共生のまちづくりの意識の醸成を図る取り組みでした。

各講座、交流会とも団体の持つ機動性やネットワークが発揮されており、参加者のアンケート結果からも、個々の事業が充実していたことが伺えました。

特に、北町での地区祭への参加は、団体の発想と熱意が生み出した新たな手法として、今後の事業展開の大きなヒントとなる取り組みでした。

また、より多くの外国人住民の集客を図るため、地域振興課の事業や、地域振興課と関わりの深い日本語ボランティア教室などを通じて事業の周知を図り、より多くの外国人住民へ情報が届くようになったことは、協働で取り組まれた成果でした。

一方、事業全体として、多文化共生は日本人区民と外国人区民の双方への働きかけが必要であることは十分理解できますが、短い期間の中では、事業の対象者をどちらか一方に絞ったほうが、より具体的な成果につながったと思います。

今後は、引き続き、区の持つネットワークや情報を活かしつつ、外国人住民の集客に努め、参加された外国人区民の声を吸い上げながら、外国人住民のニーズに合った活動を、団体の機動性を活かして継続していただくことを期待します。